

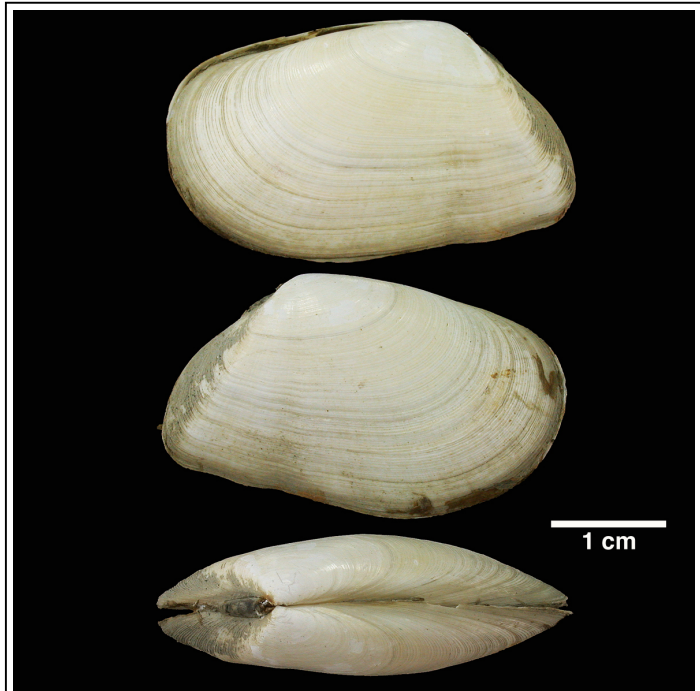
アワジチガイ *Sylvanus lilium* (Hanley)

【選定理由】

本種は、湾口部から外洋に面した海岸の潮間帯直下から水深 50 m の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種もかつては三河湾湾口部で新鮮な死殻が採集されたが (原田一夫氏私信)、1999 年からの 3 回 (30 地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した結果、死殻も採集されなかった (木村, 2000 ; 木村, 未発表資料)。1998 年に渥美外海で操業した底引き船の漁業残渣より 1 個体死殻が採集されたのみである。その後の調査では死殻も確認されていない。和田・他 (1996) では現状不明にランクされている。引き続き絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 40 mm で、殻は前後に長い長楕円形。殻長は後端により後端は尖る。殻はやや薄く、鈍いクリーム色で、膨らみは弱く扁平。



渥美半島沖(トロール漁), 1998 年 5 月, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

生息場所、個体数が減少し、近年死殻さえ採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国。国内では房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと多産した種ではないが、上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。近年死殻の採集記録もない。危機的生息状況といえ、絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)